

・3つの検証報告書について

牧：避難委員会は具体的に書いていない。課題は載っているが、屋内退避と避難の整理ができていない。屋内退避で被曝が防げるか疑問。かと言って全て避難でも問題が出てくる。実効性が伴っていない。被曝のリスク大きい。渋滞やバスの問題まで踏み込んでいない。心配がある。故郷に戻れないのがリスク。国の補償も不十分。総括委員会をきちんと開いて検討すべき。知事は開かせたくない。まとめるだけなら委員会を作る意味がない。

植：不十分な点もあるかと思うが、多くの課題が指摘されている。これだけ見ても再稼働すべきという結論を出せるのか。

・停止中と稼働中の事故進展の比較について（2017.10.4 東電提出データを提示）

植：私たちが再稼働に反対する最大の理由。危険性が変わらないのなら「今ある原発はもったいないから動かそう」という市民は結構いる。停止中と稼働中ではまるで危険性が違うことを多くの市民にも知ってもらいたい。

牧：初めて見た。停止中であれば対応が取れる。安全性が違うと思った。だから再稼働ダメ。

・3月6日の県議会での最大会派からの慎重意見について（「今の東電が再稼働することは受け入れがたい」など）

牧：東電がどうなったらいいいのか。自民党はどう考えているのか。規制委員会もダメと言っている。2002年からデータ改ざん。東電は変わらないと思う。東電は企業として最低のことができていないだけ。他の企業がやっても再稼働はダメ。

・避難計画について（3つの検証についてと重なる部分あり）

牧：上越市の計画も大雪対策できていない。バスの確保など現実的なものはできていない。

植：事故があったら市民は逃げずに屋内退避するだろうか？

牧：屋内退避しないだろう。それで渋滞になる。複合災害なら逃げられない。30キロ圏から出るだけ。燕市の計画で大河津分水を渡るだけなど。

植：上越市でも大島区などでほんの数キロ移動して30キロ圏を出るだけの計画もある。まるで30キロで放射性物質を防ぐ壁があるかのように。

牧：UPZの会でも避難計画の話になる。本来の趣旨と違うが、それだけ皆気にかけているテーマ。

・再エネ促進について

牧：再エネ促進すべき。原発に使っている費用を再エネに。新型炉の研究には使わないで。

植：新型炉の建設費用はけた違いに高いらしい。何のための新型炉の開発か？311後に本気で再エネに取り組んでいたら今になって火力発電の燃料費で苦しむことはなかった。

牧：ドイツではクリーンエネルギーが普及しているから電気料金があまり上がらなかった。蓄電池の性

能を上げる。地熱とかいろいろある。

植：再エネ促進のためには、まさに蓄電池の研究開発に焦点を絞ってお金と時間をかけるべき。国もそうだが上越市も本気で取り組む気があるのか疑問。太陽光パネルの設置で2千万円、風力発電の撤去で9千万円。個人でも1千万円掛けて太陽光パネルを設置している。市でやるレベルではない。

・柏崎再稼働について

牧：反対です。理由は、避難の問題が解決していない、安全性も確保できていない、東電の企業体質も改善していない、廃棄物の処理方法も決まっていない、福島事故の補償も国、東電も誠意が見られない、甲状腺がんの訴訟も起きているが国は隠している。責任取らない。そんな状況で再稼働させられない。廃棄物のやり場がないのに運転してどうするのか。

(その他)